

平安京貴族邸跡



「駒競行幸絵巻」(重要文化財・和泉市久保聖記念美術館蔵)

平安宮の朱雀門周辺から、とりわけ洛陽となる東側(左京)には大きな貴族邸が集まっていた。現在はそれらをうかがい知ることはできませんが、堀川御池を中心とした地域ではさまざまな貴族の邸宅跡の発掘調査が行われており、跡地には石碑やプレートが設けられています。そこにどのような貴族の邸宅があったのか、近辺のゆかりの地を歩いて往時を偲びます。また、貴族庭園を垣間見る復元庭園がある場所や、宮内庁京都事務所管轄の御所・離宮等の庭園参観方法もあわせて紹介しています。

貴族邸の特徴

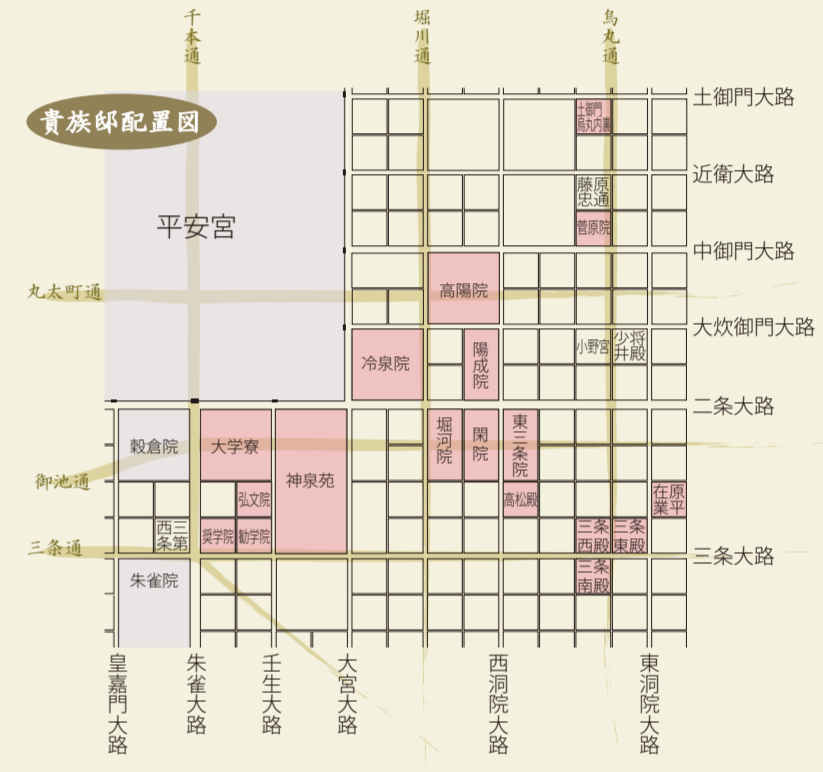
上流貴族の住宅様式は、寝殿造りと呼ばれる、その邸宅があった敷地は大きなもので、一町(約120m四方)を占有するものもありました。殿舎内は礼法に従って調度と室礼にいろいろと、華やかな貴族生活が営まれていました。



貴族邸の苑池には海辺を横した洲浜が設けられました。写真の仙洞御所の洲浜は、石1個を米1升と交換して集められたという粒の揃った玉石が池汀に敷き詰められ、見事な造形美を見せています。



貴族の遊びでは、池に浮かべた船上で和歌を詠み、管弦を奏で、酒宴を設けるといった王朝文化が好まれました。写真は当時の面影を残す修学院離宮浴池の万松塙(ばんしょう)と千歳橋。



御神社

金色の鳥居がひと際目立つお金を祀る神社。神木のイチヨウをかたどった給馬も人気で、金運アップを願う参拝者が多く訪れます。

高松殿址・高松神明神社

醍醐天皇の皇子・源高明(たかあきら)の邸宅跡。娘の明子(高松殿)が佐藤の後、後白河天皇がこの地で即位しました。保元の乱では後白河陣営の本拠地となり、源義朝や平清盛らがこの地に参集、平治の乱で全焼しましたが、鎮守社の高松神明神社だけが今も残っています。

京都府京都文化博物館

平安遷都1200年の記念事業の一環で造られた、京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合文化博物館。別館は旧日本銀行の洋風建築で、重要文化財に指定されています。

御所・離宮の参観申込について

見学生代表者が本人の身分証明書を持参し、見学者の住所、氏名、年齢、性別を記入すれば、京都御苑内で菓書、ネットを経ずとも直接参観申込み可能です。(但し、希望日によっては発行できない場合もあり、往復菓書要持参) 対象は18歳以上・場所は京都御所、仙洞御所、修学院離宮、桂離宮(但し、京都御所のみ成年者の同伴で18歳未満も参観可能) 参加最大人数に違いがあります。 宮内庁京都事務所 管理課参観係 8時45分~12時、13時~17時 ホームページアドレス → <http://sankan.kunaicho.go.jp/>

修学院離宮

借景を取り入れた日本を代表する庭園。数寄屋造りの建物、意匠を凝らした茶屋、舟遊びができる広大な苑池を配し、王朝文化の美意識を見せる景観となっています。※参観予約要

京都御苑

宮内庁京都事務所 京都市久保聖記念美術館蔵



仙洞御所

皇位を退かれた後水尾天皇のために造営された御所。小堀遠州が作庭し天皇自ら手を加えたものと言われ、往時の雅やかな風景が展開された雄大な池泉回遊式庭園です。 ※参観予約要

閑院宮邸跡

伏見家、桂宮家、有栖川宮家と並ぶ四親王家の一つ、閑院宮家の屋敷跡。書院造の建物や庭園が復元されています。 ※無料、月曜日休観

九条池と拾翠亭

江戸時代後期の五摂家の一つ、九條家の屋敷内に設けられた庭園の遺構です。中の島の厳島神社には京都三珍鳥居の一つである唐破風鳥居があります。 ※拾翠亭内の参観は有料、土・日曜日のみ公開

堀川散策路

二条城築城に伴って1603年頃に築かれた二条城東限の石垣。大名普請による目印とみられる刻印を十数ヶ所で見ることができます。

高陽院跡

丸太町通小川西入のビルの建設工事の際に高陽院庭園の貴重な遺構が発見されました。発掘された景石を使って屋上に庭園の一部が復元されています。

堀河院跡復元庭園



市立京都堀川音楽高等学校校内の中庭に、発掘調査で出土した景石や洲浜の石を用いて堀河院の園池が復元されています。

地下鉄二条城前駅展示施設



駅地下の通路に神泉苑と旧二条城の遺構のほか出土品が展示されています。CGで再現された当時の神泉苑等、自由に見学することができます。

史跡 神泉苑



平安京造営の際の基苑で、当時の敷地は今の10倍の広さがありました。824年に祈雨祈禱で空海と守敏の法力競べの場となり、869年に開かれた御霊会が祇園祭の端緒となる等、伝承の多い場所で、現在は真言宗の寺となっています。

二条駅前文化財情報板

駅前広場南側に、平安京の遺跡の情報板が設置されています。周囲に敷かれた石は、蔵人(くろうど)所町屋跡から検出された雨落溝の石材をここに移築したものです。

武信稲荷神社

平安初期、藤原良相(よしむね)が創設した、勸学院と延命院の守護神社。後に藤原武信が厚く信仰して発展に努めたことからその名がついたといわれます。境内には平安時代末期、平重盛が宮島、厳島神社から苗木を移したとされる樹齢約850年の榎があり、坂本龍馬とその妻おりの再会の逸話から、縁結びの木としても人気です。

平安貴族邸跡の主な石碑

- 1 興学院址** (しょうがくいんあし) 興学院は、在原行平(在原業平の兄)が創建した一族のための教育施設です。
- 2 勸学院址** (かんにんあし) 勸学院は、藤原冬嗣が創設した藤原氏出身の大学寮学生のための寄宿舎です。
- 3 閑院内裏址** (かんにんうちりあし) 藤原冬嗣邸を藤原公季(きんすえ)が伝領してから「閑院」と称されました。大内裏荒廃後は里内裏として利用されました。
- 4 堀河天皇里内裏址** (ほりかわてんのうらうちりあし) 藤原基経の大邸宅「堀河院」跡。後に多くの天皇の里内裏となりましたが、特に堀河天皇が愛用し、この地で崩御しました。
- 5 二条院候補地(陽成院跡)** (にじょういんこうほち(ようせいゐんあし)) 平安時代、陽成院と呼ばれた邸宅跡。醍醐天皇の主人公光源氏の邸宅である二条院のモデルとする説があります。
- 6 東三条殿址** (とうさんじょうあし) 平安時代に隆盛を極めた藤原氏の邸宅跡。醍醐天皇皇子から藤原良房、藤原兼家(東三条殿)の姉、そして藤原道長へと引き継がれました。
- 7 二条殿址** (にじょうだあし) 和歌連歌で著名な二条基良の邸宅跡。後に織田信長が二条殿を築造し、本能寺の変では長男の信忠が自害した場所でもあります。
- 8 二条殿御池跡** (にじょうだのいけあし) 二条殿の邸内にあった「龍躍池」の跡。龍池町、御池の町、二条殿町等の地名の由来となっています。
- 9 三条鳥丸御所跡** (さんじょうのうらみよあし) 堀河、鳥羽 両天皇の乳母である藤原光子の住居で、子の実能(さねよし)に受け継がれた後、鳥羽法皇の御所となりました。
- 10 三条東殿址** (さんじょうひがしだあし) 白河天皇を始め歴代天皇が里内裏としてしばしば用いました。平治の乱勃発地でもあり、その様子が『平治物語絵巻』にも描かれています。
- 11 在原業平邸跡** (ありのらのなりひらあし) 平安初期の代表的歌人である在原業平の邸跡です。

平安京 貴族邸跡



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

平安京 貴族邸跡 周辺の発掘調査

平安京には様々な貴族の邸宅がありました。特に堀川に面した京の北部には歴史上有名な貴族の邸宅が集中しています。これは、邸宅の庭園内に池を造るのに適した場所であったからでしょう。これら有力貴族の邸宅は約4,300坪～約19,000坪という広大な面積を有しており、庭園内に池を造り、優雅に舟遊びを行っていたようで、その様子が「駒競行幸絵巻」等にも描かれています。また、内裏が焼亡した折には、天皇の里内裏としても利用されました。

1 西三条邸跡

平安時代前期の公卿で右大臣藤原良相の邸宅です。平安京右京三条一坊六町の発掘調査で、建物や池を発見し、池から出土した遺物には、輸入陶磁器を含め高級な陶磁器が多いこと、仏器とみられる器形があること、墨書された土器が多いことが特徴で、「三条院釣殿高坏」と墨書された高坏もみつかっています。この墨書土器により、この地が文献史料だけではなく、考古学的な遺物によっても西三条第と証明されました。



10 二条殿

押小路殿は鎌倉時代の後鳥羽上皇の御所で平安京左京三条坊十町にあり、泉の景観が著名であったといわれています。承久の乱後、藤原道家の所有となり、関白左大臣藤原(二条)良実へ引き継がれ二条殿と呼ばれるようになり室町時代まで存続します。「洛中洛外図」にも描かれる有名な邸宅でした。発掘調査では鎌倉時代後期の建物に伴って庭石等が発見されています。池は室町時代を通してあったことも確認されています。



11



2 高陽院

平安時代中期～後期の公卿で摂政・関白・太政大臣藤原頼通の邸宅です。平安京左京二条二坊九・十・十五・十六町の四町を占めます。発掘調査では、邸宅内の各場所ので池跡を発見し、それが何度も修復されていることが明らかとなりました。「駒競行幸絵巻」にはここで舟遊びをしたことが描かれています。また、各池跡からはかなりの遺物が出土しており、その中には黒漆を塗り側面は金粉を蒔いた平塵地に銀で波文を描いて研ぎ出しているものもあり、海浜から運んだ石の礎石(下写真)等、頼通の優雅な生活が思い浮かびます。



3



上層からは中世の鋳型なども出土します。

12 冷泉院(冷然院)

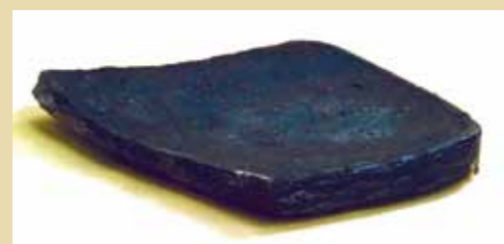
平安時代の歴代の後院で平安京左京二条二坊三～六町の四町分を有します。桓武天皇が造った離宮を嵯峨天皇が「冷泉院」と改称するとともに拡張・整備を進められたものと考えられています。発掘調査では四町内で平安時代前期～中期の池と平安時代後期に改修された池を発見しています。三町内では、院北端の南北溝から平安時代前期後半の遺物が大量にみつかりました。優品の緑釉陶器が多いことが特徴です。



13



4



5



14 堀河院

平安時代前期の公卿、太政大臣藤原基経が開き、関白兼通によって改修され、平安時代中期後半～後期にかけての円融・白河・堀河・鳥羽天皇の里内裏となりました。平安京における最高の名邸の一つで、平安京左京二条坊九・十町の二町分を有しています。発掘調査では、十町で平安時代後期の池とその地業底から「方上」と墨書された木簡がみつかっています。この「方上」は今の福井県鯖江市にあった「方上荘」と呼ばれた荘園のことと考えられます。九町の南半からは平安時代後期の池がみつかり、使われていた景石は日本海沿岸から運ばれたものと判明しています。



6



7



高陽院の池跡は縄文時代から弥生時代の自然流路を利用したもので、下層からはその時代の土器が出土します。

15



8 三条棧敷殿

平安京左京四条三坊九町での発掘調査で島と遣水に大小の景石で構成された庭園を発見しました。遣水に伴って出土した遺物は平安時代中期～後期のものでした。文献史料からは平安時代後期には、この町が三条棧敷殿であり、その後、左大臣で徳大寺家の祖となった藤原実能の邸宅があったとされています。



9 神泉苑

神泉苑は平安京唯一の禁苑です。場所は平安京左京三条一坊九～十六町の八町(約39,000坪)を有する広大な庭園です。平安京の造営とともに桓武天皇によって造営されました。桓武天皇はここを気に入り、在位27回も行幸されています。また、天長元(824)年の大干ばつの折、天皇の勅命により、東寺の空海と西寺の守敏との折雨合戦は有名な話で、神泉苑においては、その後もたびたび雨乞いの儀式が行われ、干ばつ時には神泉苑の池の水を開放したりしています。発掘調査では苑池北縁部みぎわと船着場と思われる足場板が発見されています。



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

